

公平な社会を描くための 強力なツールにするために

スプツニ子！

ジェンダーの視点から見る生成 AI とテクノロジーは、私たちの未来を形作る上で非常に重要なテーマです。私自身、これまでのアート制作や研究を通じて、テクノロジーがどのように社会や個人の価値観に影響を与えるかを探求してきました。AI はその進化の一例であり、私たちの生活に新しい可能性をもたらしていますが、同時にリスクも内包しています。特に、ジェンダーや社会的バイアスがどのようにテクノロジーに組み込まれるかという点については、深刻な問題意識をもっています。

生成 AI は、大量のデータを学習し、パターンを抽出して新しいアイデアやコンテンツを生み出す技術です。しかし、そのデータには過去の社会の偏見やステレオタイプが含まれることが多く、AI はそれを無批判に再生産してしまうリスクがあります。たとえば、女性は家庭にいるべきだとか、特定の職業には向いていないといった偏見が、AI によって無意識のうちに強化される可能性があるのです。AI が学習する画像データベースには、女性の姿が性的に描かれたものが多く含まれており、それが AI によって再生成されると、結果的にその偏った視点がさらに広がることとなります。これは、ジェンダー平等を目指す社会において非常に逆行するものであり、私たちはこのようなバイアスの再生産を防ぐために、AI の開発と使用に対してもっと責任をもつ必要があります。

しかし、テクノロジーには問題を解決するための可能性もあります。生成 AI やほかのテクノロジーを使って、ジェンダーに関する新しい物語や価値観を創出することも可能です。たとえば、AI を使って歴史的に見過ごされてきた女性やマイノリティの視点を強調する作品を作ることができます。私自身も、これまでのアート作品を通じて、テクノロジーを使った新しいジェンダー表現を探求してきました。テクノロジーは使い次第で、従来のジェンダーの枠組みを破壊し、新しい公平な社会を描くための強力なツールとなり得るのです。



PROFILE

スプツニ子！：英国ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学科及び情報工学科を卒業後、英国王立芸術学院 (RCA) デザイン・インタラクションズ専攻修士課程を修了。RCA 在学中より、テクノロジーによって変化していく人間のあり方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。2013年よりマサチューセッツ工科大学 (MIT) メディアラボ助教に就任、Design Fiction Group を率いた。2019年に (株) Cradle を設立。